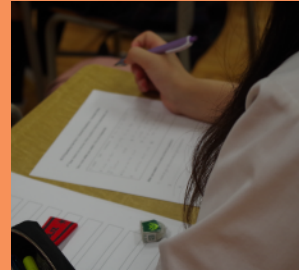


舞台は世界だ!

Go! Global



2018 KGM
グローバル人材
育成プログラム
レポート Vol.13

Brand-New!

KANTO GAKUIN MUTSUURA
JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL



ますます進むグローバル化は、加速するボーダーレス化とも言えます。中高一貫校での6年間は、入学から10年後、さらには20年後の社会を見据えて準備する大切な時と場です。ボーダーレスに向かう社会を早期に意識し体験する学習環境づくり。関東学院六浦は60周年を迎えた今、「若く純粋な想いを道へ.....将来を世界に繋ぐこと」が新たな使命と考えています。

進化し続ける授業

feature1

一人1台のパソコン



2018年6月、生徒に一人一台のパソコンが導入されました。

本校では身近に迫ったグローバル化に向けての政策として、2014年度からネット環境の整備に取り掛かりました。2015年度にはWi-Fi環境を整え、学校の敷地内であればどこでもネットに繋ぐことができるようになりました。教員には一人1台のiPadが支給され、教室はもとより、グラウンドでの体育の授業やクラブ活動でも活用されています。例えば、走り方のフォームを確認することや試合の様子などを撮ってみることも可能になりました。

生徒への導入にも十分な時間をかけ、iPadキーボード付きのパソコンも悩みに悩みました。2020年の大学入試改革を視野に入れていたからです。例えば、英語外部試験のGTECにおいてもCBT (computer based testing) でなければ、大学入試に通用しないことなどが考えられたからです。いよいよ2年生から4年生(高校1年生)にchromebookが導入されました。大学入試改革の初年度の学年である4年生からの導入です。生徒たちはホームクラスの先生から連絡をもらったり、宿題を提出したり、授業での調べ学習や文章作成など様々な用途に利用していきます。



feature2

朝日中高生新聞国内法人 日本初採用!



「朝日中高生新聞のデジタル版出来ませんか?」そんな問いかけから始まりました。パソコンを導入するのだから紙の新聞ではなく、また、紙の新聞ですら最近を取っていない家庭も多いのが現状ですから。「丁度、準備中です。」何というタイミングの良さか。実は、「朝日中高生新聞電子版」は、海外赴任しているご家庭の子ども向けに配信されていました。日本国内に届けている紙の新聞と同じ内容をパソコンの画面で楽しむことができます。それを、「日本へ」。そして、「関東六浦へ」配信していただけることになりました。新聞記事だけでなく、過去1か月分の紙面を閲覧できたり、辞書検索機能もついていて、過去3年分の新聞からの記事検索もできる機能が付いています。朝学習、宿題、本校の特徴の一つである「地球市民講座」での調べ学習にも役立ちます。あまりニュースを見ない生徒や、過去を知らない生徒が興味をもって読み込んでいます。

feature3

朝日今解き教室

3年生と4年生は、朝日新聞社の「朝日今解き教室 電子ドリル」を使用して、記事の読解を行い、時事知識の定着を図っています。電子ドリルは週1回、3種類の記事読解シートが更新されます。「図・グラフ」、「時事」、「天声人語」の3種類で、それぞれ朝日新聞に掲載された記事が取り上げられています。

1学期の間、3年生は「文章力講座」で、主に「図・グラフ」に絞って取り組みました。さらに、記事から読み取ることができる「事実」とそれに対する自分の「意見」をグループワークを通して出力し、原稿用紙にまとめました。これに教員が助言や添削をします。

4年生では、週1回「朝学習」の時間を利用して3種類のシートに取り組んでいます。この学年から大学入試が変わることを見据え、特に資料の読み取りや対話形式の課題に対応できる力をつけていきます。

このような取り組みを通して、読解力・思考力・記述力を養っていきます。

Film Studies in English

3年生総合学習

extra learning

土曜講習

IELTS Studies

English Movie Time is a course designed for students who love movies and want to improve their English! We watch three main movies in this course of three genres: Comedy: **Evan Almighty** (God contacts Congressman Evan Baxter and tells him to build an ark in preparation for a great flood).

Drama: **Stand By Me** (Four boys go on an adventure that will change their lives forever).

Documentary: **Super-Size Me** (Morgan Spurlock personally explores the consequences on his health by only eating McDonald's food for one month).

After watching these films, students make their own movie using iPads. The goal for students is to apply some of the things they learned about movies such as character, setting, plot and dialogue into their own work. Of course, the movies they make will be in English as well so students



will have that added challenge. I hope that the students in this class will by the end have a better appreciation of film, learn a fun new way of learning English and enjoy working together for a common goal!



The IELTS class is intended to be a general introduction to the IELTS exam. IELTS is one of the most widely recognized English tests in the world, but is perhaps not so widely known in Japan, where the EIKEN dominates. The class gives students an overview of IELTS and then works through each section of the exam. IELTS is a very broad test of English-language ability, so in taking the class students get a lot of all-round English practice.

The class is also designed to encourage students to take the exam. IELTS is particularly useful for studying abroad (and is also increasingly accepted by Japanese universities), and so fits in well with KGM's English program. While the class cannot hope to cover every facet of the IELTS exam in-depth, we hope that some students will take on the challenge of IELTS as an extra-curricular activity.



Integrated Studies : Taiwan and Mandarin through English

I'm so honored to introduce what we have been doing in the Learning Mandarin in English Class.

Since this is a brand new course for our school and we do CLIL, we also implement CLIL in this Mandarin class. We have been



using English to teach the target language, Mandarin. We have found students were eager to learn in this way. We spend a 1/3 of the course learning Taiwanese culture, which includes attractions and festivals. In addition to that, we also share our daily food culture by introducing the breakfast shops in Taiwan and how it affects our eating habits. We hope that students can enlarge their world view by being exposed to different cultures. As for the language aspect, we teach students Hanyu Pinyin Romanization so that they can read and

use any materials written in Pinyin. By this, they can extend their learning if they are ambitious to learn more. They also have the chance to learn daily greetings in class. Many of them can use these simple greetings when we meet outside of class. We have twelve grade three students signed up for this course this year. The class is taught by two Taiwanese teachers and one Japanese teacher. The students enjoy group work and have been so focused in class. We are very happy to have those wonderful students.

In Saturday Mandarin Chinese class, we learn not only the language Mandarin Chinese, but also give more exposure to the Taiwanese culture.

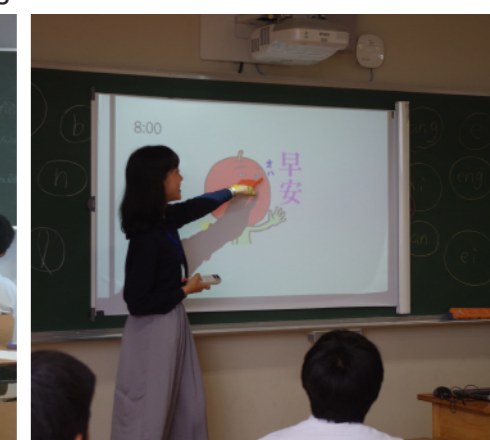
For the language, we are sticking to the traditional Chinese and use Hanyu-Pinyin Romanization, which enables students to type Chinese without changing keyboard settings.

For culture, which is the core of the global vision, we grow closer to Taiwan by watching the historic film: *Wansei Back Home* (2015), by playing the traditional game of Dragon Boat Festival, and by sharing lots of interesting facts and knowledge about Taiwan. At the end of the

semester, we will handmake tapioca milk tea, the world-famous drink of Taiwan. With lots of real content and interactions, the students' motivation for learning



Mandarin Chinese is increased. Hopefully, they will have the opportunity to visit Taiwan someday!



初のアラスカ

第3回アラスカ研修では、日本では体験できないことを色々体験し、思い出深い研修になりました。参加者が語る最も印象に残った「初めての体験」です。



アラスカは日本と違い、厚着をしていても空港を出た瞬間にその寒さを感じます。チェナ温泉で特に印象に残ったのは、水がとてつもなくまずいことです。水は、例えるなら卵の自身か鉄のような味がします。ただし、お湯にすると日本の水の味に近づきます。でもそれでもまずいので、ティーバックなどを入れて飲んだりしました。私はこんな水を初めて飲み、日本の水のおいしさを再確認しました。

(4年 KN)

冬のアラスカと日本の気温には、30℃程度の差がありますが、体感温度にはそれほど差がありませんでした。それはアラスカと日本の湿度がかなり違うため、温度変化をそう感じなかったのだと思います。また、湿度が違うので雪はサラサラで固まらず、風が吹くと宙に舞うような雪でした。私はこのような雪を初めて見ました。

(4年 KM)

GETs シフトチェンジの英語授業

GETs (Global English Teachers) が、定期試験の終了や新学期を目標に担当するクラスの交代 (シフトチェンジ) を1年生で取り入れました。この交代の趣旨は、同じ英語でも様々な話し方・発音に触れることにあります。母語が異なる人々の間で使用される共通言語としての英語、すなわち、“リンガフランカ”の観点から様々な国や地域出身の GET から学んでほしいと考えています。



校長先生のメッセージ

誰もが社会の大きな変化の予兆を感じ始めました。日本の社会は、これまで経験したことのない速さと規模で変化します。少子化と生産労働人口の減少に対する対策が、いよいよ具体的な政策となり始めました。

一方でアジア諸国の経済成長は著しく、高度なインフラが無かったがゆえの突然のイノベーション社会の出現という光景は珍しくありません。生活水準が上がるにつれ、スマートな「日本式」が求められる。日本のあらゆる業界の活動の比重がアジアへと高まる。経済活動のグローバル化は日本国内の事情と引き合い、気づかないうちに国内グローバル化を推し進めています。

海外からの留学生は、2008年から高度人材として国策として積極的に受け入れられ、卒業後の国内就職者が年々増加。2016年の経済財政諮問会議では留学生の国内就職と定住促進を進める方針が示され、そして今年6月の同会議では、技能労働者の活発な受け入れのための新しい法整備が唱えられました。また、国内は人工知能やロボット、そして見えない部分では RPA の技術革新が浸透し、職場もバック・オフィスでの合理化が進みます。日本国内を世界からの人たちとシェアする時代が来ます。

いま世界の25%の人々のコミュニケーション・ツールである英語の重要性と、そして中国語の重要性があらたに高まっています。生徒たちが社会で活躍する頃は、その二つの言語が世界のその世代の半数の人々の共通言語になります。

まさに国内外が VUCA (ブーカ) の時代に突入すると感じます。六浦は10、20年後の日本の社会を想像し、教育観を変えました。「グローバル化」が死語となる近未来を思い、未来に生きる子どもたちに力の種を植える。しっかりと基礎学力とコミュニケーション力を育てながら、感受性が柔軟なうちに視野を地球規模に広げ、学びのインセンティブを高める。自己肯定感を持ち自己決定力を持つ主体的な人となってほしいと願います。その思いが、六浦のチャレンジ、GO! GLOBAL です。

(学校長 黒畑勝男 2014年入職就任)

